

# ブドウ黒とう病の効果的な防除方法

福島県農業総合センター 果樹研究所 病害虫科

部門名 果樹－ブドウ－病害虫防除

担当者 日下部翔平、小松健太郎

## I 新技術の解説

### 1 要旨

ブドウ黒とう病の本病の重点防除期は展葉初期～開花期であり、本県での生育期最初の防除は展葉5～6枚期である。本病は近年発生報告が多く、生産現場からは対策の強化が求められていることから、これよりも早い展葉2～3枚期からの追加散布による防除効果を検証した結果、慣行防除よりも防除効果が高かった。また、展葉5～6枚期以降に本病に対して防除効果の高い薬剤の検討を行った結果、3剤が見出された。

- (1) 2022年および2023年に、福島市及び須賀川市の現地ほ場（品種は「雄宝」および「シャインマスカット」）において、展葉2～3枚期にキャプタン水和剤（商品名：オーソサイド水和剤80）の追加散布を行った結果、いずれも慣行防除より防除効果が高かった（表1、表2）。
- (2) 2024年および2025年に、展葉5～6枚期および展葉8～9枚期にインピルフルキサム水和剤（商品名：カナメフロアブル）、ピラジフルミド水和剤（商品名：パレード15フロアブル）、メフェントリフルコナゾール水和剤（商品名：ベランティーフロアブル）を散布した結果、対照薬剤のキャプタン水和剤と比較して、いずれの薬剤も防除効果が高かった（図1）。
- (3) 展葉2～3枚期の防除及び上記3剤は、令和8年版農作物病害虫防除指針に採用した。

### 2 期待される効果

- (1) 効果的に防除することで本病の被害が減少し、高品質果実の安定生産に寄与できる。

### 3 適用範囲

- (1) 県内のブドウ生産者

### 4 普及上の留意点

- (1) インピルフルキサム水和剤（FRACコード：7）、ピラジフルミド水和剤（FRACコード：7）、メフェントリフルコナゾール水和剤（FRACコード：3）はFRACコード7または3の薬剤であり、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、連用を避け年間の使用回数に注意する。
- (2) 本病の病原菌は巻きひげで越冬するため、耕種的防除として巻きひげの除去も併せて行う。

## II 具体的データ等

表1 福島市現地ほ場における展葉2～3枚期の防除の効果（2022年）

	調査枝No	調査葉数	程度別発病葉数※				発病葉計	発病葉率 (%)	発病度※※
			無	少	中	多			
展葉2～3枚期 追加防除	1	100	100	0	0	0	0	0	
	2	101	100	0	0	1	1	1.0	
	3	101	100	1	0	0	1	1.0	
	平均	101	100	0.3	0	0.3	0.7	0.7	
慣行防除	1	116	88	13	3	12	28	24.1	
	2	102	99	1	0	2	3	2.9	
	3	122	107	11	3	1	15	12.3	
	平均	113	98	8.3	2.0	5.0	15.3	13.5	

品種は「雄宝」を供試し、調査は5月31日に実施した。

※指数0(無)：病斑なし 1(少)：病斑10個以下 2(中)：11～30個 3(多)：31個以上

※※発病度 =  $\{ \sum (\text{指数} \times \text{程度別発病葉数}) / 3 \times \text{調査葉数} \} \times 100$

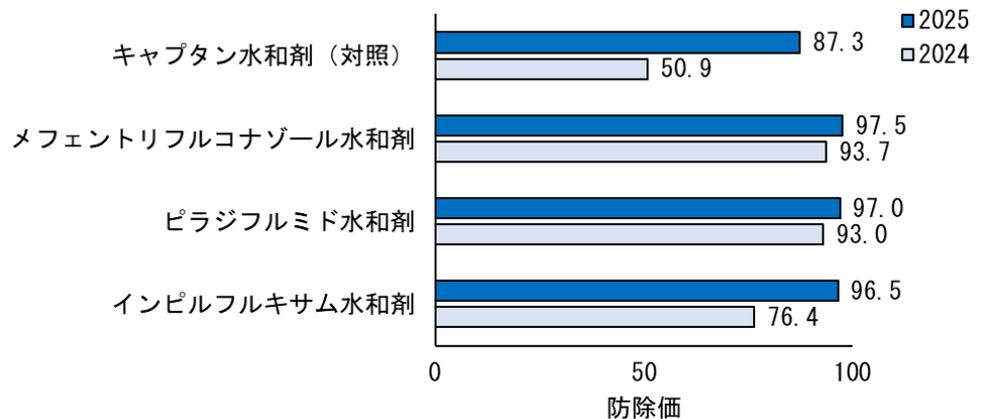
表2 須賀川市現地ほ場における展葉2～3枚期の防除の効果（2023年）

	調査枝No	調査葉数	程度別発病葉数※				発病葉計	発病葉率 (%)	発病度※※
			無	少	中	多			
展葉2～3枚期 追加防除	1	107	107	0	0	0	0	0	
	2	104	104	0	0	0	0	0	
	3	110	110	0	0	0	0	0	
	平均	107	107	0	0	0	0	0	
慣行防除	1	114	105	6	2	1	9	7.9	
	2	113	111	2	0	0	2	1.8	
	3	106	105	1	0	0	1	0.9	
	平均	111	107	3.0	0.7	0.3	4.0	3.6	

品種は「シャインマスカット」を供試し、調査は6月7日に実施した。

※指数0(無)：病斑なし 1(少)：病斑10個以下 2(中)：11～30個 3(多)：31個以上

※※発病度 =  $\{ \sum (\text{指数} \times \text{程度別発病葉数}) / 3 \times \text{調査葉数} \} \times 100$



## III その他

### 1 執筆者

日下部翔平

### 2 成果を得た課題名

(1) 研究期間 令和2～7年度

(2) 研究課題名 果樹病害虫の防除法改善に関する試験、安全で効率的な新農薬・新資材等の実用化〔全国農業協同組合連合会委託事業〕

### 3 主な参考文献・資料

(1) 日下部翔平、「福島県におけるブドウ黒とう病及びブドウ晩腐病の防除対策強化の検討」

北日本病害虫研究会報 第74号 p138

図1 ブドウ黒とう病に対する防除効果（2024年～2025年）

キャプタン水和剤は800倍、メフェントリフルコナゾール水和剤は8,000倍、ピラジフルミド水和剤は2,000倍、インピルフルキサム水和剤は4,000倍で散布した。品種は「ピオーネ」を供試し、展葉5～6枚期および展葉8～9枚期に計2回散布した。